

10. 性能

項目	「墜落制止器具の規格」
肩・背中・腰・腿・胴ベルト	15.0kN 以上
フック・環類	11.5kN 以上
フック外れ止め装置	1.0kN の力を加えた時、隙間に φ3mmのピンゲージが通らないこと。
巻取器	11.5kN 以上
肩/腿ベルト用バックル連結部	6.0kN 以上
胴ベルト用バックル連結部	8.0kN 以上
ストラップ・ショックアブソーバ	15kN 以上
ショックアブソーバの衝撃吸収性	重さ125kgの重錘またはトルソーを自由落下距離で落下させた場合に、衝撃値が4.0kN以下であること、またショックアブソーバの伸びが1.2m以下であること。
フルハーネス本体	引張強度
	順方向引張強度15kN 以上 逆方向引張強度10kN 以上
	落下強度
	脚部および頭部から先に落下させた時に、トルソーを保持すること。 落下後のランヤードとトルソーのなす角度は45°以下。 ベルトの著しい裂け、縫製部の破断、金具の破損なきこと。

保管用 第3版
56398

Tajima

ご使用前に必ずお読みください。

「墜落制止器具の規格」適合品

取扱説明書

フルハーネス型 タイプ1 125kg用

このたびは、《墜落制止器具フルハーネス型 タイプ1 125kg用》をお買い上げいただきありがとうございます。本製品は、建設工事現場・工場等の高所作業に用いる墜落制止器具です。ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容をよくご理解の上、ご使用ください。

△危険・△警告・△注意の項目は、事故を未然に防ぐために厳守してください。この取扱説明書は、いつでも活用できるよう大切に保管してください。

取扱説明書を紛失された場合は、弊社 HP にも掲載しておりますので、プリントアウトして保管してください。

HP アドレス： <https://jpn.tajimatool.co.jp>

(HP トップページにある「取扱説明書」のボタンをクリックしてください)

この墜落制止器具はフルハーネス型 タイプ1 (1本つり)専用です。

●目次

1.用途	2～3	5.フルハーネスへのフルハーネス型	
2.フルハーネス本体の構造および各部名称	4～5	ランヤードの取付け方法	14
3.装着方法	6	5-1 フックの操作方法	14
3-1 装着方法	7～8	5-2 フックの使用方	14
3-2 バックルの使用方	9	5-3 フックハンガー使用方	14
3-3 ベルトの長さ調節	10～11	6.必ずお守りください	
3-4 AR環の使用方 (ZAのみ)	11	(使用上の注意事項)	15～19
3-5 SEGフルハーネスとSEG胴当て		7.点検と廃棄の基準	20～22
ベルトの取付け方	12	8.保管と手入れのしかた	23
3-6 胴ベルトの取付け方	12	9.交換の目安(耐用期間)	23
4.フルハーネス型ランヤードの構造		10.性能	24
および各部名称	13		

製品に関するお問い合わせは

✉ <https://jpn.tajimatool.co.jp/inquiry>

TEL 0120-125577



受付時間：
月曜日～金曜日
9:00～17:00
(12:00～13:00
祝日・当社指定休日を除く)

株式会社TJMデザイン

本社/〒174-8503 東京都板橋区小豆沢3-4-3
<https://jpn.tajimatool.co.jp>

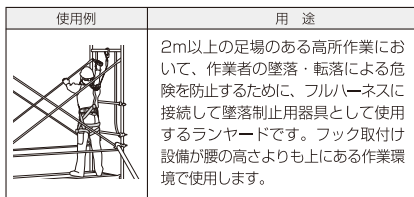
SZ211002

1. 用 途

このランヤードはフルハーネス型
タイプ1※1 125kg用(1本つり※2)
用です。その使用例および用途
は次のとおりです。

※1 タイプ1
自由落下距離で墜落を制止する時の衝撃荷重が
4.0kN 以下になる。第1種ショックアブソーバを
備えたランヤードとなります。

※2 1本つり
図のようにランヤード先端のフックを構造物に掛けて、構造物から人体までがランヤード1本でつながっている状態をいいます。



●体重（使用可能質量）* の制限について

体重は 125kg 以下でご利用ください。

体重が 125kg を超えると墜落時に大きな衝撃荷重が加わり、墜落制止用器具が破断して重大な事故が起こるおそれがありますので使用しないでください。

*体重（使用可能質量）：体重と装着する全ての物の合計質量

●使用高さの制限について

このランヤードは下図の通り、作業床から地面までの距離が4.35m以上の環境での使用を想定しております。

【想定条件】

- ・D環の高さ：1.45m
- ・フック取付け高さ：0.85m

a：フック取付け高さ

b：D環の高さ

c：ランヤード長さ

d：ショックアブソーバ、フルハーネス、ランヤードの伸び合計

A：最大自由落下距離（ランヤードが緊張し、ショックアブソーバが作動する落下距離）

$A = c + (b - a)$

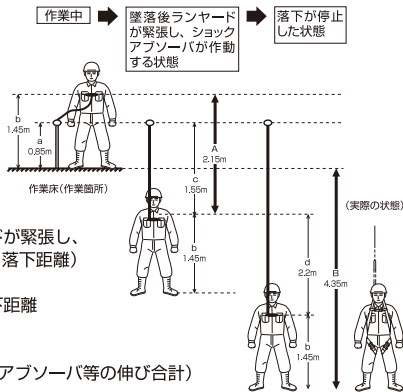
B：作業床（作業箇所）からの落下距離

$B = c + d + (b - a)$

$= A + d$

（最大自由落下距離+ショックアブソーバ等の伸び合計）

$b - a$ ：追加落下距離



種類：フルハーネス型 種別：第一種(4kN)

- ・体重(使用可能質量)：125kg 以下
 - ・最大自由落下距離：2.15m
 - ・落下距離：4.35m
- でご利用ください。

製品のラベルにも記載がありますので、右図赤枠内の表記を必ずご確認ください。

「墜落制止用器具の規格」適合品 株式会社TJMデザイン			
フルハーネス型 第一種(4kN)	125kg	10000000	製造番号
最大自由落下距離	2.15m	有	フックに表示
落下距離	4.35m	有	製造番号

- 最大自由落下距離 このショックアブソーバの性能を確認している試験落下高さです。実使用上は、フックを掛ける高さによって落下距離が変動します。
- 落下距離 体重(使用可能質量)125kgの方が、高さ0.85mの親網および単管にフックを掛けた状態で墜落した場合の作業床からの落下距離です。
- 使用可能質量 体重と装着する全ての物の合計質量です。

▼安全にご利用いただくために必要となる作業床～地面までの距離

	親網および単管にフックを掛ける高さ					
	0.85m	1.0m	1.15m	1.3m	1.45m	1.6m
必要となる距離 (作業床～地面)	4.35m 以上	4.2m 以上	4.05m 以上	3.9m 以上	3.75m 以上	3.6m 以上
作業床からの落下距離	4.35m ラベル表記	4.2m	4.05m	3.9m	3.75m	3.6m
最大自由落下距離	2.15m ラベル表記	2.0m	1.85m	1.7m	1.55m	1.4m

例として、同じD環の高さの方が、使用高さ3.75mの場所でご使用される場合の推奨使用方法を右図に記します。
D環の高さ：1.45m
フック取付け高さ：1.45m
(0.6m高い位置に掛け替える)

a：フック取付け高さ

b：D環の高さ

c：ランヤード長さ

d：ショックアブソーバ、フルハーネス、ランヤードの伸び合計

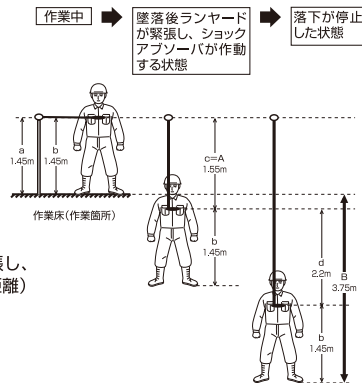
A：最大自由落下距離（ランヤードが緊張し、ショックアブソーバが作動する落下距離）

$A = c$

B：作業床（作業箇所）からの落下距離

$B = c + d$

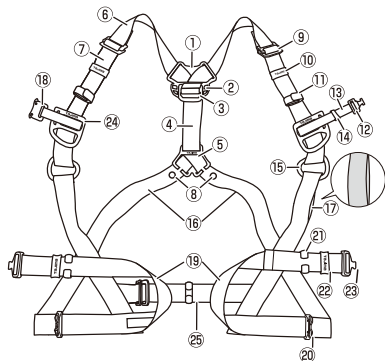
$= A + d$



作業床から地面までの距離が4.35m以下の場所でご使用になる場合は、フックを0.85mより高い位置に掛け替えてご利用ください。

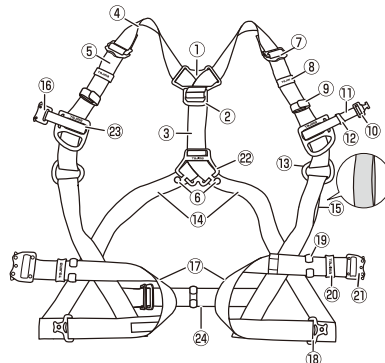
2.フルハーネス本体の構造および各部名称

ZAタイプ



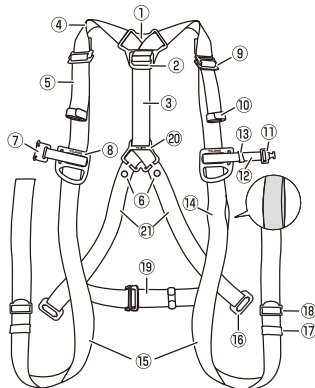
- ①バックパッド
- ②AR環
- ③D環
- ④背中ベルト
- ⑤腰パッド
- ⑥肩ベルトA
- ⑦肩ベルトB
- ⑧固定用ボタンホック
- ⑨肩バックル
- ⑩ベルトストッパー
- ⑪ロックバンド
- ⑫胸バックル (凸側)
- ⑬胸ベルト
- ⑭胸ベルト用ベルト通し
- ⑮アクティブリング
- ⑯腰ベルト
- ⑰固定用ループ
- ⑱胸バックル (凹側)
- ⑲腿ベルト
- ⑳腿バックル (凹側)
- ㉑ベルトキーパー
- ㉒ベルトストッパー
- ㉓腿バックル (凸側)
- ㉔フックハンガー
- ㉕骨盤ベルト

ZSタイプ



- ①バックパッド
- ②D環
- ③背中ベルト
- ④肩ベルトA
- ⑤肩ベルトB
- ⑥固定用ボタンホック
- ⑦肩バックル
- ⑧ベルトストッパー
- ⑨ロックバンド
- ⑩胸バックル (凸側)
- ⑪胸ベルト
- ⑫胸ベルト用ベルト通し
- ⑬アクティブリング
- ⑭腰ベルト
- ⑮固定用ループ
- ⑯胸バックル (凹側)
- ⑰腿ベルト
- ⑱腿バックル (凸側)
- ⑲ベルトキーパー
- ㉑ベルトストッパー
- ㉒腿バックル (凹側)
- ㉓腰パッド
- ㉔フックハンガー
- ㉕骨盤ベルト

GSタイプ



- ①バックパッド
- ②D環
- ③背中ベルト
- ④肩ベルトA
- ⑤肩ベルトB
- ⑥固定用ボタンホック
- ⑦胸バックル (凹側)
- ⑧フックハンガー
- ⑨肩バックル
- ⑩ロックバンド
- ⑪胸バックル (凸側)
- ⑫胸ベルト
- ⑬胸ベルト用ベルト通し
- ⑭固定用ループ
- ⑮腿ベルト
- ⑯腿バックル (凹側)
- ⑰ベルトキーパー
- ⑱腿バックル (凸側)
- ㉑骨盤ベルト
- ㉒腰パッド
- ㉓腰ベルト

3. 装着方法

装着方法・胴ベルトの取り付け方法を動画でもご覧いただけます▶



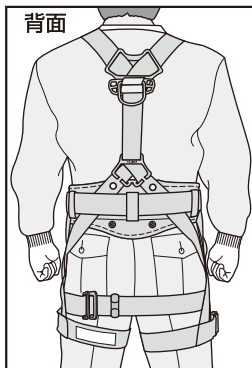
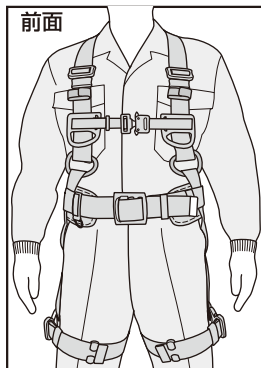
ご注意

SEG フルハーネスは胴ベルトには直接取付けることはできません。12ページをご確認の上、タジマの **SEG** 胴当てベルトと胴ベルトを組合わせてご使用ください。

SEGフルハーネス + **SEG** 胴当てベルト + 胴ベルト

※イラストはZAシリーズです。

〈装着例〉

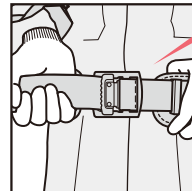
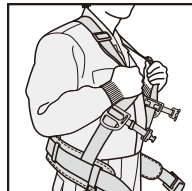


対応表		フルハーネス
		L(125kg用)
胴ベルト フルハーネス	GAXW600・ACRX600・USFX600・USCX600	※
	GAXW700・CRX700・ACRX700・USFX700・USCX700・CKRX700	○
	GAXW800・CRX800・ACRX800・USFX800・USCX800・CKRX800	○
	CRX900・CKRX900	○

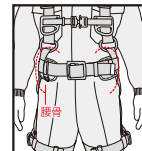
※フルハーネスの固定用ループに胴ベルトを通し固定(引掛けガイド外側)
フルハーネスと胴当てベルトの組合わせは同サイズのものをおすすめします

3-1. 装着方法 ※イラストはZAシリーズです。ZS、GSシリーズも同じ装着方法です。

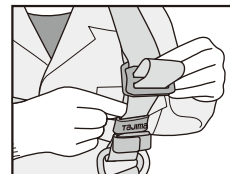
- ①フルハーネスの胸バックル、腿バックル、胴ベルトのバックルを外した後、リュックを背負うように肩ベルトに腕を通す。この時肩ベルトがよじれている場合は直してください。
- ②胴ベルトを腰骨の高さに合わせ、体にフィットするように長さを調節し装着する。



腰骨の高さ

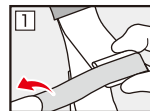


- ③肩バックルを使い、肩ベルトの長さを調節し、体にフィットさせる。
(調節目安：肩ベルトA/B、背中ベルトが適度に張った状態)

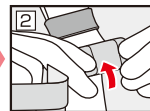


肩ベルトの長さ調節は10ページをご覧ください。

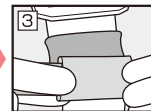
- ④肩ベルトが緩まないようベルトストッパーを肩バックル下に移動させる。(ZA/ZSのみ)
調節後余った肩ベルトは下の図の手順でまとめ固定する。



肩ベルトBの先端のロックバンドをはがす



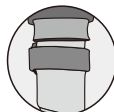
はがしたロックバンドを軸に余った肩ベルトを巻く



ベルトストッパー下まで、その状態でロックバンドを使ってベルトを固定する。
※ロックバンドの黒面が上になるようにベルトに巻付け固定する。

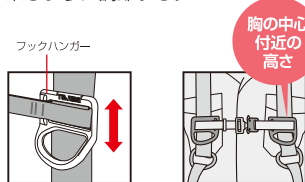


表側



裏側

- ⑤フックハンガーを上下にスライドさせ、胸ベルトが胸の中心付近の高さに来るように調節する。



- ⑦ZA/ZSシリーズの場合
腿ベルトの腿バックル（凸側）を腿バックル（凹側）に差し込み固定。その後太腿にフィットするように腿ベルトの長さを調節する。余った腿ベルトはベルトキーパーに通し固定する。また腿ベルトが緩まないように、ベルトストッパーを腿バックル横に移動させる。（ZA/ZSのみ）

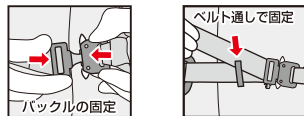


腿ベルトの長さ調節は10ページをご覧ください。

- ⑧骨盤ベルトにたるみが出ないように骨盤ベルトの長さを調節する。余った骨盤ベルトはベルトキーパーに通し固定する。

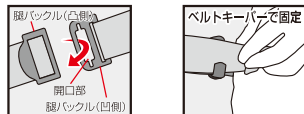
骨盤ベルトの長さ調節は11ページをご覧ください。

- ⑥胸ベルトの胸バックル（凸側）を胸バックル（凹側）に差し込み固定。その後、胸ベルトの長さを調節する。（調節目安：胸ベルトが適度に張った状態）余った胸ベルトは胸ベルト用ベルト通しに通し固定する。

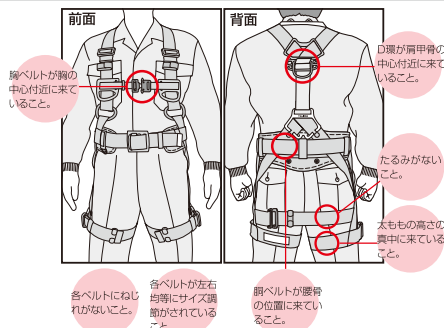


胸ベルトの長さ調節は10ページをご覧ください。

- ⑦GSシリーズの場合
腿ベルトの腿バックル（凸側）を腿バックル（凹側）の開口部に通し固定。その後太腿にフィットするように腿ベルトの長さを調節する。余った腿ベルトはベルトキーパーに通し固定する。



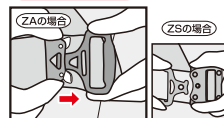
正しい装着例



3-2.バックルの使用方法

ZA/ZSシリーズの腿バックル

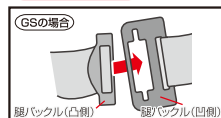
連結する時



- ①片方の腿バックル（凹側）を持ち、反対側の腿バックル（凹側）の奥に当たるまで差し込みます。

GSシリーズの腿バックル

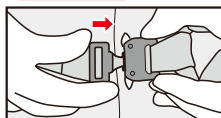
連結する時



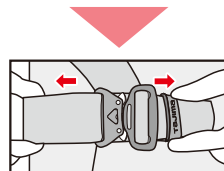
- ①腿バックル（凸側）を腿バックル（凹側）の開口部に矢印の方向で通し固定します。

全シリーズ共通胸バックル

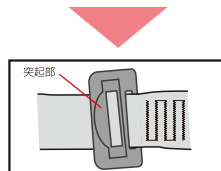
連結する時



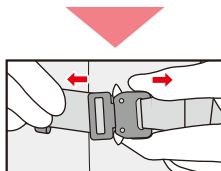
- ①片方の手で胸バックル（凸側）を持ち、胸バックル（凹側）の奥に当たるまで差し込みます。



- ②両側のロック解除レバーがロックの位置にあることを確認し、さらに腿ベルトを左右に引張り、バックルがロックされていることを確認してください。

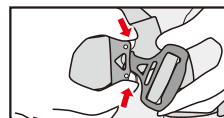


- ②腿バックル（凸側）の突起部が縫製部の逆側に来ていることを確認してください。



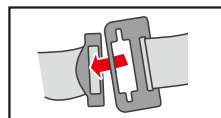
- ②両側のロック解除レバーがロックの位置にあることを確認し、さらに胸ベルトを左右に引張り、バックルがロックされていることを確認してください。

外す時



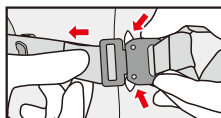
- 両側のロック解除レバーを同時に押すと腿バックルが外れます。

外す時



- 腿バックル（凸側）を腿バックル（凹側）の開口部に矢印の方向で通すと腿バックルが外れます。

外す時



- 両側のロック解除レバーを同時に押すと胸バックルが外れます。

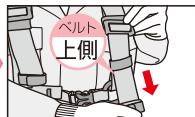
3-3.ベルトの長さ調節 ※イラストはZAシリーズです。GS/ZSも同じ調節方法です。

肩ベルト

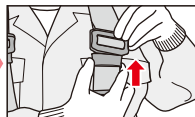
ベルトを短くする場合



①下側の肩ベルトBを矢印の方向へ押出して「たわみ」を作る。

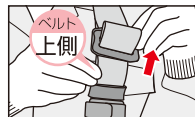


②上側の肩ベルトBを矢印の方向へ引張り「たわみ」を無くす。



③ベルトストッパーをバックルの下に移動する。(ZA/ZSのみ)

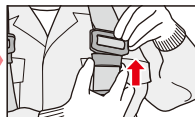
ベルトを長くする場合



①上側の肩ベルトBを矢印の方向へ押出して「たわみ」を作る。



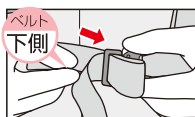
②下側の肩ベルトBを矢印の方向へ引張り「たわみ」を無くす。



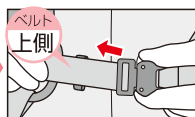
③ベルトストッパーをバックルの下に移動する。(ZA/ZSのみ)

胸ベルト

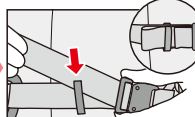
ベルトを短くする場合



①下側の胸ベルトを矢印の方向に押出して「たわみ」を作る。

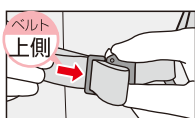


②上側のベルトを引張り「たわみ」を無くす。



③上側の胸ベルトを「胸ベルト用ベルト通し」に固定し、長い場合は折り返す。

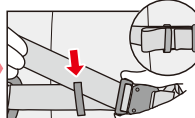
ベルトを長くする場合



①上側の胸ベルトを矢印の方向に押出して「たわみ」を作る。



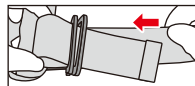
②下側のベルトを引張り「たわみ」を無くす。



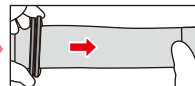
③上側の胸ベルトを「胸ベルト用ベルト通し」に固定し、長い場合は折り返す。

骨盤ベルト

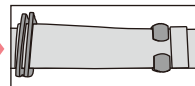
ベルトを短くする場合



①下側の骨盤ベルトを矢印の方向へ押し出して「たわみ」を作る。

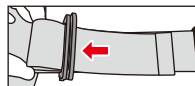


②上側の骨盤ベルトを矢印の方向へ引張り「たわみ」を無くす。

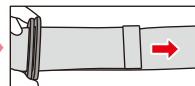


③上側の骨盤ベルトをベルトキーパーに固定し、長い場合は折り返す。

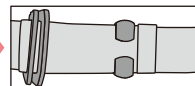
ベルトを長くする場合



①上側の骨盤ベルトを矢印の方向へ押し出して「たわみ」を作る。



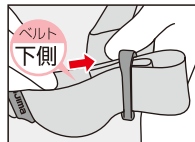
②下側の骨盤ベルトを矢印の方向へ引張り「たわみ」を無くす。



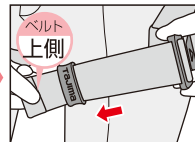
③上側の骨盤ベルトをベルトキーパーに固定し、長い場合は折り返す。

腿ベルト

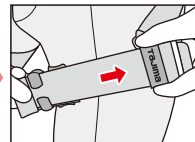
ベルトを短くする場合



①下側の腿ベルトを矢印の方向へ押出して「たわみ」を作る。

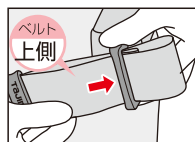


②上側の腿ベルトを矢印の方向へ引張り「たわみ」を無くす。

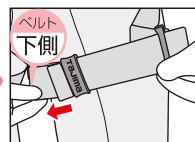


③調節後、余ったベルトをベルトキーパーに通し、ベルトストッパーをバックル側に寄せる。

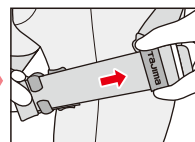
ベルトを長くする場合



①上側の腿ベルトを矢印の方向へ押出して「たわみ」を作る。

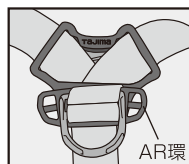


②下側の腿ベルトを矢印の方向へ引張り「たわみ」を無くす。



③調節後、余ったベルトをベルトキーパーに通し、ベルトストッパーをバックル側に寄せる。

3-4.AR環の使用法 (ZAのみ)



AR環には安全ロープが取り付けられます。

●安全ロープ取り付け穴 (1穴) 許容重量: 1.0kg以下



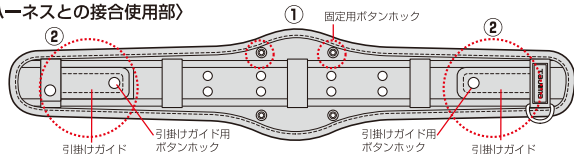
※設定荷重以上の安全ロープ (取付け工具を含む) は絶対に取付けしないでください。

3-5. SEGフルハーネスとSEG胴当てベルトの取り付け方法

〔注意〕必ずフルハーネスと胴当てベルトを先に取付けてから胴ベルトを取付けてください。

※イラストはCRXシリーズです。その他シリーズも同じ取り付け方法です。

〈フルハーネスとの接合使用部〉



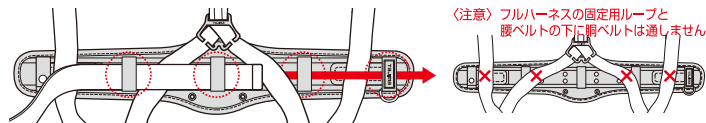
- ① 胴当てベルト中央の固定用ボタンホック上側2つとフルハーネスの固定用ボタンホックの位置を合わせ、しっかりと奥まで押し込み留める。
- ② 引掛けガイド用ボタンホックを外し、図のようにフルハーネスの固定用ループ部を通す。引掛けガイド用ボタンホックを留めて固定する。反対側も同じように固定する。その際ベルトがよじれないように注意する。

3-6. 胴ベルトの取り付け方法

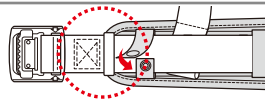
3-5の方法でフルハーネスと胴当てベルトを取付けた後、図のように胴ベルトを胴当てのベルトループに通す。

この時、フルハーネスの腰ベルトは胴当てベルトの左右真ん中のベルトループの内側に来るようにする。

〔ベルトループ数〕GAXW600のベルトループは2箇所、その他の胴当てベルトは4箇所あります。



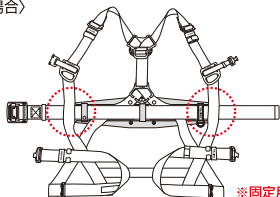
ボタン式ベルトループのボタンを外し、胴ベルトのバックルを通し、最後にボタンを留め固定する。



〔ご注意〕下記製品の組み合わせの場合、胴当てベルトの「引掛けガイド」は使用せず、胴ベルトを下記位置でフルハーネスの固定用ループに通します。

〈対応表※の組み合わせの場合〉

フルハーネス (Lサイズ/125kg用)
GAXW600
ACRX600
USFX600
USCX600



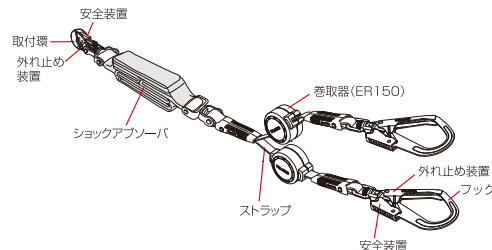
※固定用ループの位置にご注意ください。

4. フルハーネス型ランヤードの構造および各部名称

使用するランヤードについて

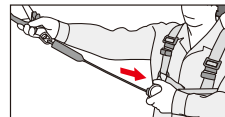
フルハーネスに使用するランヤードは、必ずフルハーネス型ランヤードをご使用ください。フルハーネス型ランヤード以外を組合わせた場合、墜落制止時の衝撃荷重が「墜落制止用器具の規格」に定められた4kNを超える場合があります。またフルハーネスと組合わせるフルハーネス型ランヤードは当社製品をご使用いただくことを推奨します。

〈巻取式(ロック装置なし)〉ERタイプ 125kg用



〈ストラップ長さの調節方法〉

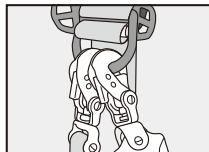
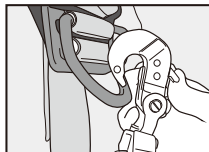
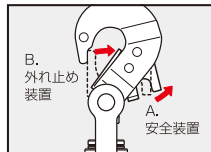
- ① ストラップを全て引出す
- ② 引出したい長さになるように巻取器本体を身体側にスライドさせ、ストラップを固定する。



5.フルハーネスへのフルハーネス型ランヤードの取付け方法

フルハーネスのD環と直接ランヤードが付いている製品については、この取付け作業は必要ありません。

- ①A安全装置を引上げて、B外れ止め装置を押して取付環を開く。
- ②外れ止め装置を押しながらフルハーネスのD環に取付ける。
- ③シングルランヤードを2本取付ける場合は図のように取付けます。



危険 外れ止め装置がしっかりロックされているか、ご確認の上で使用ください。

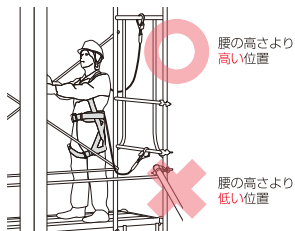
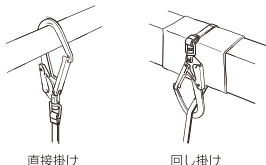
5-1.フックの操作方法

フックは外れ止め装置と安全装置を同時に握ってください。開口します。



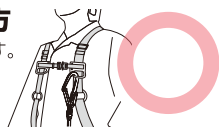
5-2.フックの使用方法

フックは腰の高さより高い位置の堅固な構造物等に直接掛けをするか、あるいはランヤードを利用して回し掛けをしてください。



5-3.フックハンガーの使い方

フックハンガーはフック休止専用部品です。

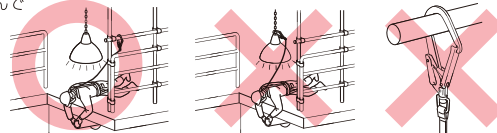


6.必ずお守りください（使用上の注意事項）

危険 誤った使い方をしますと、墜落などの危険性がありますので、絶対にやめてください。

- ランヤードは堅固な構造物に取付けてください。

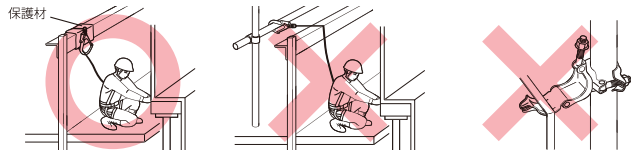
ランヤードは、構造物から抜けたり、破損したりするおそれなく、墜落制止時の衝撃荷重に十分耐えるものを選んで取付けてください。



電線筒等弱い構造物に取付けると、墜落制止時の衝撃荷重で破損し、墜落する危険性があります。

- ランヤードが鋭い角に触れないようにしてください。

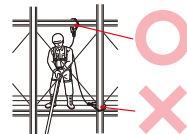
ランヤードが墜落時に鋭い角に触れるおそれのある所では使用しないでください。



墜落制止時に鋭い角でランヤードが切断することがあります。したがって、鋭い角のある構造物を避けてランヤードを掛けるか、または構造物に丈夫な布などの保護材を巻いてご使用ください。

- フックは腰の高さより高い位置に取付けてください。

フックは必ず腰の高さより高い位置に取付けてください。低い位置に取付けた場合、落下距離が長くなり床面または下方の障害物に接触する危険性があります。また衝撃荷重が大きくなり身体に損傷を及ぼすおそれがあるばかりか、ランヤードが切断する危険性があります。絶対にしないでください。



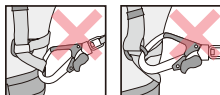
- フルハーネス型ランヤードをフルハーネスのD環に取付ける際は、フルハーネス装着前に取付けてください。装着後に取付ける場合は別の人に確実に取付けてもらってください。

- 本製品を墜落制止目的でご使用になる場合、必ずフルハーネス型ランヤードをご使用ください。絶対に胴ベルト型ランヤード、ワークポジショニング用ロープ（U字つり）、補助ロープ（移動用）は使用しないでください。

- フックハンガーをD環等、強度のある器具の代わりとして使用しないでください。
フックハンガーは使用していないランヤードのフックを吊り下げるためのものです。フックハンガーをD環等強度のある金具の代わりとして使用した場合、墜落制止時にフックハンガーが外れたり、壊れて重大事故につながる危険性がありますので、絶対にしないでください。



- アクティブリングやフルハーネスベルトにフックは絶対に取付けないでください。

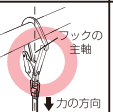
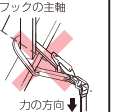
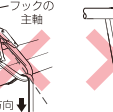


- 改造や部品の取外し等の加工は絶対に行わないでください。

- 組合わせて使用される製品の取扱説明書もあわせてご覧いただき、正しくお使いください。

- フックは正しく掛けてください。

誤った掛け方をすると、フック本体が変形または破断して墜落する危険性があります。フックは墜落制止時に折れ曲がったり、外れ止め装置および安全装置に荷重が加わらないように、フックの主軸の方向と墜落制止時にかかる力の方向が一致するように掛けてご使用ください。回し掛けは鋭角部を避け、フックに横方向の曲げ荷重が加わらないように、また縫製部保護カバーが屈曲しないように掛けてください。フックが正しく掛かっているか（外れ止め装置が閉じているか、安全装置が構造物との接触で押されていないか等）目視で確認し、あわせて引張って外れないか、確実に連結されているかご確認の上ご使用ください。

	直接掛け	回し掛け	穴掛け（ボルト穴など）
正しい掛け方			
誤った掛け方			

誤った掛け方をすると、外れ止め装置や安全装置がねじられたり部材が押されたりしてフックが取付け部から外れたり、フック本体が変形して墜落するおそれがあります。

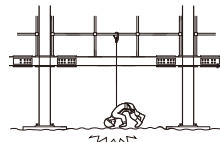
- どちらか一方のランヤードが構造物と連結しているようにしてください。（ランヤード2本をご使用の場合）

どちらか一方のランヤードを掛ける前にもう一方のランヤードを外すと、構造物との接続がなくなり、墜落する危険性があります。

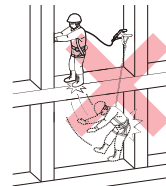
警告 誤った使い方をしますと、墜落などのおそれがありますので、やめてください。

- 墜落制止用器具は墜落災害の防止用ですので他の用途には使用しないでください。

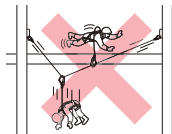
- ランヤードは墜落制止時に床面または下方の障害物に接触しない位置に取付けてください。



- ランヤードは振り子状態にならないように位置に取付けてください。

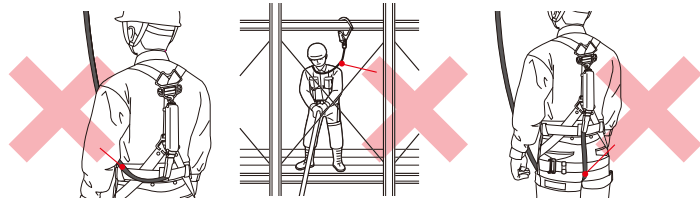


- 親綱（垂直・水平）の1スパンを利用する作業者は1名としてください。



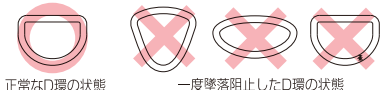
友引き状態になり、他の作業員も同時に墜落するおそれがあります。

- ランヤードが首の前にある状態や脇、股に挟み込んだままで作業をしないでください。



- 一度でも大きな荷重が加わったものは廃棄してください。

右図のように環類が変形・破損していれば、大きな外力が加わった可能性があります。墜落制止用器具全体を廃棄してください。



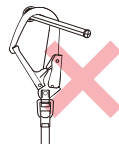
正常なD環の状態

一度墜落阻止したD環の状態

外見上の変形がなくても、一度でも大きな荷重が加わったものは設定減衰力が低くなり、再び墜落すると衝撃荷重が人体へ大きく加わって、安全限界を超えて人体が損傷するおそれがあります。墜落制止用器具全体を廃棄してください。

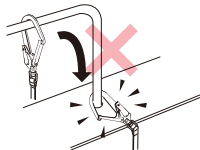
- フックをステップボルトに掛けないでください。

墜落制止時にフックが曲がったり、抜けたり、ステップボルトが折損したり、重大事故になる危険性がありますので、絶対にしないでください。



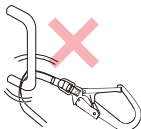
- フックが滑り落ちるような場所にフックを掛けしないでください。

支柱に滑り止めとなる横棒のない枠組み足場の手すりや斜めの構造物など、フックが取付け位置から滑る場所にはフックを掛けしないでください。



- 屈曲としごきが加わる使用はしないでください。

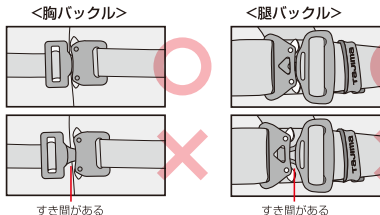
縫製部、縫製部際に過度の屈曲としごきが繰り返されると、縫製部を保護するカバーが破損し、縫製部の強度低下につながるため絶対にしないでください。



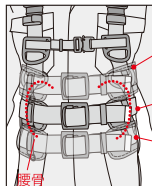
- 2丁掛け仕様の場合、掛け替え時以外の通常使用時は、両方のフックを掛けた状態で作業しないでください。

墜落制止時にショックアブソーバが正常に機能しない場合があります。

- フルハーネスのバックルが確実にロックされていることを確認してください。



- 腰骨の位置で身体にフィットするようにしっかり締めてください。



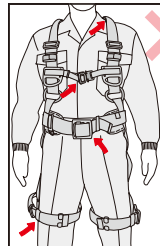
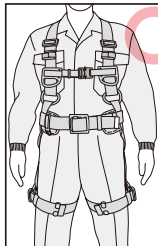
この位置で墜落すると、内臓圧迫のおそれがあります

正しい位置

この位置で墜落すると、足元に抜けて事故のもとになります

- 必ずベルトの長さを体にフィットするように調節してご使用ください。

ベルトを緩めた状態で装着していると、墜落時に大きな衝撃荷重が加わり、体が損傷したり、フルハーネスが体から抜けて重大な事故につながる可能性があります。また作業時に突起物などに緩んだベルトが引掛かり転倒するおそれがあります。



- 溶接の火花、強い酸やアルカリ、油、その他高温高熱の物体や化学薬品類が製品に付着しないようにしてください。

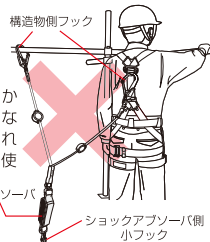
- ⚡ 雨の日は感電に注意してください。

- 墜落制止用器具は-10℃～50℃の範囲で使ってください。

ベルト・ランヤード・ショックアブソーバが火気または高温部に触れないようにしてください。なお、使用温度が-10℃～50℃以内であっても、水に濡れて凍結すると、フックの外れ止め装置と安全装置、バックルのスライド部が作動しないおそれがあります。操作する上で異常がないか確認しながらお使いください。

- ショックアブソーバ側の小フックをフルハーネスの背中D環に取付けてご使用ください。

誤った取付け方法でご使用された場合、落下距離が長くなるばかりか墜落制止時にショックアブソーバが全く機能せず衝撃荷重が大きくなり、身体に損傷を及ぼす危険性があります。また十分な強度が得られず墜落制止できないおそれがありますので、正しい取付け方法でご使用ください。



⚠ 注意 安全にお使いいただくためにお守りください。

- 墜落制止用器具に体重を掛けて作業をしないでください。

万一の墜落制止を目的に使用する製品です。

- 丁寧に扱ってください。

ランヤードを引きずりますとフックに砂などの異物が付着したり、ランヤードが摩耗したりします。使用しない時、ストラップ巻取式タイプについてはストラップを巻取器に収納してください。

- フルハーネス、フルハーネス型ランヤード、胴当てベルト、胴ベルトを組合わせてご使用になる場合は、当社製品を組合わせていただくことを推奨します。

- フルハーネスと胴当てベルトは同じサイズのを組合わせていただくことを推奨します。

- 墜落制止時に身体に傷をつける場合がありますので、工具類は腰袋へ入れてください。

- 墜落制止用器具は屋外に放置しないでください。

ベルト・ランヤードは合成繊維製のため紫外線によっても強度が低下します。

7. 点検と廃棄の基準

- 一度でも大きな荷重が加わったものは使用せず、廃棄してください。
墜落制止用器具および関連器具は消耗品であり、使用しているうちに摩耗などにより性能が低下します。従って点検において 1 項目でも廃棄基準に達しているものは、機能不良や強度不足になりますので新品と取替えてください。
- 始 業 点 検：使用する人が作業前（装着時）に毎回行ってください。
点検後地上で墜落制止用器具を装着し、異常のないことを確認してください。
- 定 期 点 検：使用する人もしくは管理者により 1 カ月ごとに行ってください。
- 異常時点検：作業中墜落制止用器具に異常を感じたら直ちに作業を中止し、再点検を行ってください。

- 墜落制止用器具点検チェックリスト 日常の点検を励行してください。
- ：異常なし
×：異常あり

年 月 日

廃棄基準に達しているものは新品と取替えてください。
(このチェックリストをコピーして点検時にご使用ください)

点検項目			廃棄基準	判定		
フルハーネス	ベルト	両 耳	摩耗・擦り切れ	2mm 以上の摩耗・擦り切れのあるもの		
			切り傷	2mm 以上の切り傷のあるもの		
			焼損・溶融	2mm 以上の焼損・溶融しているもの		
		幅の中	摩耗・擦り切れ	2mm 以上の摩耗・擦り切れのあるもの		
			切り傷	2mm 以上の切り傷のあるもの		
			焼損・溶融	2mm 以上の焼損・溶融しているもの		
	全 体	薬品・塗料	2mm 以上付着しているもの			
		切り傷	2mm 以上の切り傷のあるもの			
		焼損・溶融	2mm 以上の焼損・溶融しているもの			
		ねじれ・曲り	ベルトがねじれたままのものや、ねじれを解消してもベルトが曲がってよじれたままのもの			
		磨耗	腰袋などに隠れるベルト部分が摩耗しているもの			
		縫製部	縫糸	1 ヲ以上切断しているもの		
	バックル	変形	締まり具合が悪いもの			
			リベットのカジメ部にガタ・変形があるもの			
			深さ 1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの			
			リベットのカジメ部が 2 分の 1 以上摩滅しているもの			
			ベルトの啗合部が摩滅しているもの (正しく装着し、力をかけるとベルトがゆるむもの)			
			錆	全体に錆が発生しているもの		
		ばね	折損、脱落しているもの			
			変形	目視で確認できる変形のあるもの		
環類			摩滅・傷	深さ 1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの		
			錆	全体に錆が発生しているもの		
その他		割れ、亀裂のあるもの				
胴ベルト	ベルト	両 耳	摩耗・擦り切れ	3mm 以上の摩耗・擦り切れのあるもの		
			切り傷	3mm 以上の切り傷のあるもの		
			焼損・溶融	3mm 以上の焼損・溶融しているもの		
		幅の中	摩耗・擦り切れ	3mm 以上の摩耗・擦り切れのあるもの		
			切り傷	3mm 以上の切り傷のあるもの		
			焼損・溶融	3mm 以上の焼損・溶融しているもの		
	縫製部	摩耗・擦り切れ	3mm 以上の摩耗・擦り切れのあるもの			
		焼損・溶融	3mm 以上の焼損・溶融しているもの			

ベルト		点検項目	廃棄基準	判定		
眼ベルト	ベルト	全 体	薬品・塗料	3mm 以上付着しているもの		
			切り傷	3mm 以上の切り傷のあるもの		
			焼損・溶融	3mm 以上の焼損・溶融しているもの		
			先端止めの変形	バックルに通らなくなったもの		
			先端止めの脱落	先端止めが脱落してベルトがはつれているもの		
	バックル	縫製部	縫糸	1 か所以上切断しているもの		
		変形	締まり具合が悪いもの			
			リベットのカシメ部にガタ・変形があるもの			
			深さ 1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの			
			リベットのカシメ部が 2 分の 1 以上摩滅しているもの			
ランヤード	フック	摩滅・傷	ベルトの噛合部が摩滅しているもの (正しく装着し、力をかけるとベルトがゆるむもの)			
			錆	全体に錆が発生しているもの		
			折損、脱落しているもの			
			変形	外れ止め装置の開閉操作の悪いもの		
			リベットのカシメ部にガタつきがあるもの			
	巻取器	摩滅・傷	深さ 1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの			
			リベットのカシメ部が 2 分の 1 以上摩滅しているもの			
			錆	全体に錆が発生しているもの		
			折損、脱落しているもの			
			より戻し	より戻しの回転部に 0.8mm 以上の隙間があるもの		
ショックアブソーバ	ストラップ	変形	ストロップの巻込み、引出しができないもの			
			取付ねじ	巻取器の取付ねじが脱落しているもの		
			破損・傷	巻取器が破損しているもの		
			樹脂カバー(ケース)	樹脂カバー(ケース)が破損しているもの		
			リベット	リベット頭部が 1/2 以上摩滅しているもの		
	環類	錆	金属部に錆が発生しているもの			
			摩耗・擦り切れ	芯の露出、また 1mm 以上の摩耗・擦り切れのあるもの		
			使用開始から 2 年が経過しているもの			
			切り傷	芯の露出、また 1mm 以上の切り傷のあるもの		
			焼損・溶融	芯の露出、また 1mm 以上の焼損・溶融しているもの		
ショックアブソーバ	ストラップ	薬品・塗料	汚れ・変色・硬化しているもの			
			縫製部保護カバー	縫製部保護カバーが破損または脱落しているもの		
			縫糸	摩耗・擦り切れ・切断しているもの		
			薬品・塗料	薬品が付着したもの		
				薬品により変色・溶融個所があるもの		
	塗料が著しく付着して、硬化したもの					
	切り傷	カバーが破れてショックアブソーバが露出しているもの (テープなどを巻付けないでください)				
	環類	変形	擦り切れ	両端の環部のベルトが著しく擦り切れているもの		
			衝撃荷重	大きな衝撃荷重を受け作動したもの		
			目視で確認できる変形のあるもの			
摩滅・傷			深さ 1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの			
錆			全体に錆が発生しているもの			

1 項目でも廃棄基準に達しているものは使用しないでください。

墜落制止用器具の廃棄基準の一例

ベルト	摩耗・擦り切れ・切り傷・焼損・溶融		摩耗・擦り切れ・切り傷・焼損・溶融	
	両耳	 2mm以上の摩耗・切り傷があるもの	幅の中	 2mm以上の摩耗・切り傷があるもの
ストラップ	切り傷		摩耗	
	 1mm以上の摩耗・切り傷があるもの		 芯が見えているもの	
	形崩れ		薬品・塗料	
	 全体に波打っているもの		 塗料が付着して硬化しているもの。また薬品が付着し、変色しているもの	
バックル	損傷・溶融		縫糸	
	 変形		 縫糸が1か所以上切断しているもの	
環境類	変形		摩滅・傷	
	 変形し、締め具合の悪いもの		 1mm以上の摩滅、傷があるもの	
シンシアンバー	変形		摩滅・傷	
	 目視で変形が確認できるもの		 1mm以上の摩滅、傷があるもの	
フック	破れ		摩滅・傷	
	 カバーが破れてショックアブソーバが露出しているもの		 1mm以上の摩滅、傷があるもの	
巻取器	変形		破損・傷	
	 外れ止め装置の開閉操作の悪いものフックが曲がったもの		 本体が破損しているもの	

8. 保管と手入れのしかた

●墜落制止用器具は次のような場所で保管してください。

- ①直射日光に当たらない所。
- ②風通しがよく、湿気のない所。
- ③火気・放熱体などが近くにない所。
- ④腐食性物質を置いていない所。
- ⑤塵埃の少ない所。
- ⑥子供が遊びに使ったり、動物が製品に損傷を与えたりしないような場所。

●物品の下積みなどにより傷や変形が起こらないようにしてください。

●ベルト・ランヤードに泥・埃・油・塗料が付着している場合は、乾いた布などで拭き取ってください。

●フック・バックルなどの金具は付着した砂・土・水などを拭き取り、可動部に時々注油してください。

●高温（50℃以上）となる場所に長時間保管しないでください。

9. 交換の目安（耐用期間）

使い方によって異なりますが、交換の目安としては、ランヤード部は使用開始年月より2年、フルハーネス本体・ベルト部は3年くらいを目途としてください。ただし、耐用期間内であっても「7.点検と廃棄の基準」にしたがって点検を必ず実施し、廃棄基準に達したものは使用しないで、新品と取替えてください。

●使用を開始した年月を腿ベルト裏面に縫い付けてあるラベルに必ず記入してください（下図参照）。

●ランヤード部などを取替えた時は、その年月をラベルに記入してください。

